

2019 年度入学時アンケートの結果（報告）

報告：FD 委員会

内容検討：FD 委員会、入学センター、広報課

集計・分析：IR センター教育情報分析室

目次：

I. アンケートの概要	・・・ 2
II. 全体の傾向	
1) 基本属性	・・・ 2
2) 入学に至るまで：大学 HP について	・・・ 3
3) 入学に至るまで：オープンキャンパス、相談会、TVCM	・・・ 4
4) 入学に至るまで：入学目的	・・・ 4
5) 入学に至るまで：志望順位	・・・ 5
6) 入学後：学業面と生活面での不安	・・・ 5
7) 入学後：大学生活への満足感	・・・ 7
III. 大学生活の満足度と関連する要因の検討	
1) 基本的属性との関連	・・・ 8
2) 志望順位、入学目的との関連	・・・ 8
3) 入学後の学習面・生活面での不安、不安の相談相手・相談窓口との関連	・・・ 8
IV. 入試形態に着目した集計	
1) オープンキャンパスの参加、各種相談会の参加、TVCM 視聴の関連	・・・ 11
2) 入学目的、志望順位の関連	・・・ 12
3) 本学 HP から得た情報との関連	・・・ 14
4) 本学の志望順位とオープンキャンパスの参加、各種相談会の参加、TVCM 視聴の関連	・・・ 15

I. アンケートの概要

2019年4月から5月にかけて1年生を対象にユニバーサルパスポートのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、入学に至るまでの項目(HPからの情報収集、オープンキャンパス/各種相談会への参加、TVCMの視聴、本学の入学目的、本学の志望順位、併願先の大学)、入学後の大学生活に関する項目(大学満足度、現在の学生生活の不安及び相談行動)により構成されている。1,085名の回答が得られた(回答率75.0%)。

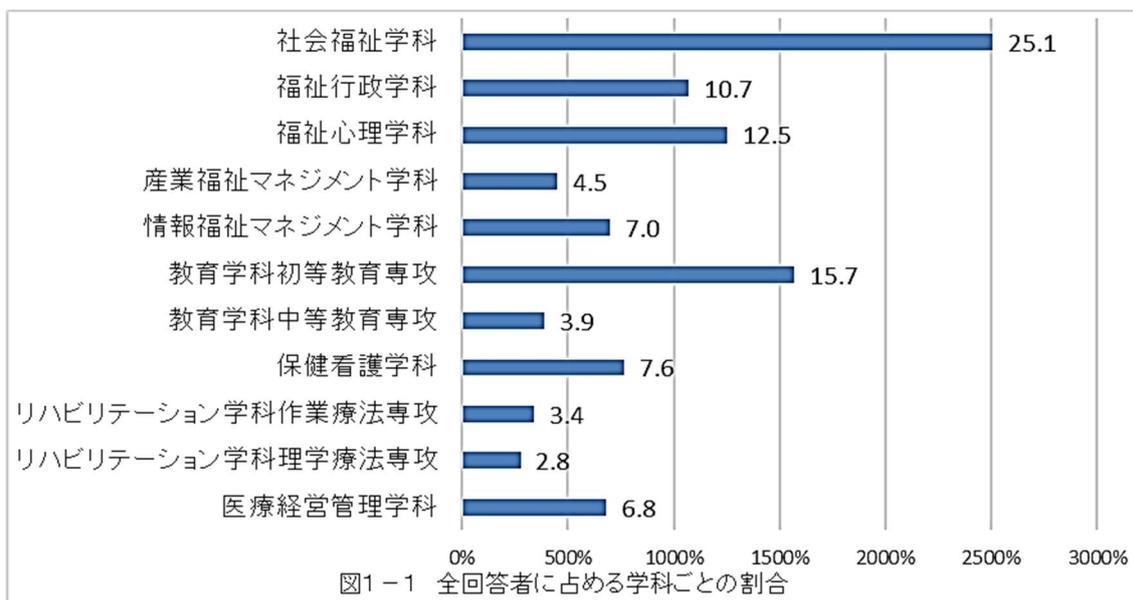
II. 全体の傾向

1) 基本属性

学科ごとの回答者数と回答率を表1にまとめた。次いで、回答者の入試形態、居住形態、出身地について、図1-1から図1-4にまとめた。

表1 学科ごとの回答人数と回答率

	回答者数	学科ごとの回答率
社会福祉学科	272	63.0
福祉行政学科	116	100.0
福祉心理学科	136	100.0
産業福祉マネジメント学科	49	44.5
情報福祉マネジメント学科	76	65.5
教育学科初等教育専攻	170	75.6
教育学科中等教育専攻	42	95.5
保健看護学科	83	90.2
リハビリテーション学科作業療法専攻	37	88.0
リハビリテーション学科理学療法専攻	30	65.2
医療経営管理学科	74	92.5
合計	1085	75.0



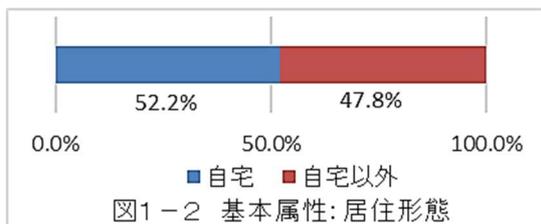


図1-2 基本属性: 居住形態

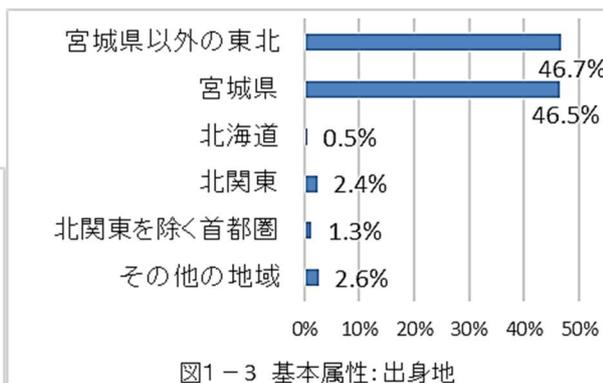


図1-3 基本属性: 出身地

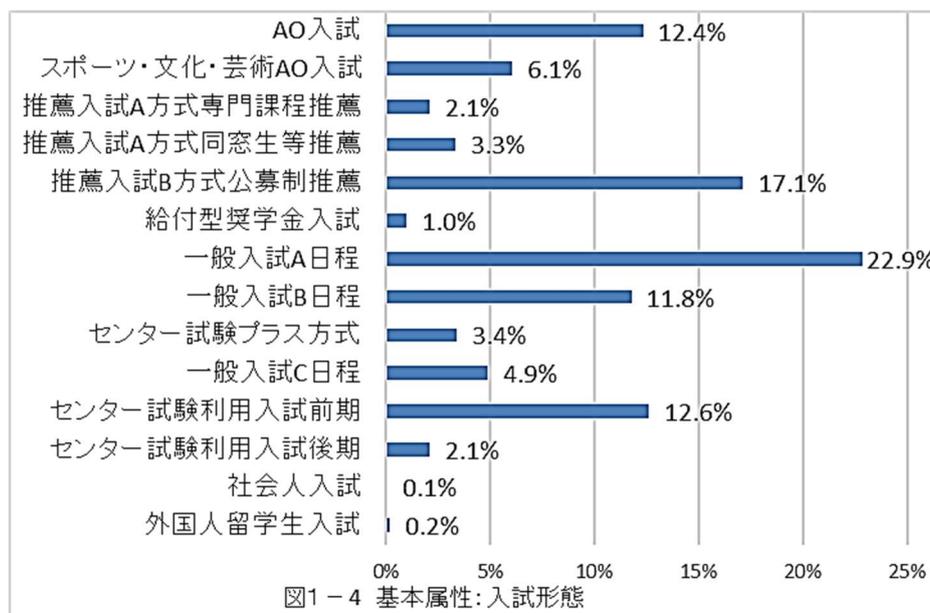


図1-4 基本属性: 入試形態

2) 入学に至るまで: 大学 HP について

入学前の HP 閲覧について、HP から「適切に得ることができた項目」について図 2-1、「その学科に受験したいと思う気持ちを高めた項目」について図 2-2 に示す。特に「資格、学科の特徴、進路・就職・キャリア」に関する情報が本学進学への動機づけを高めていることが示された。

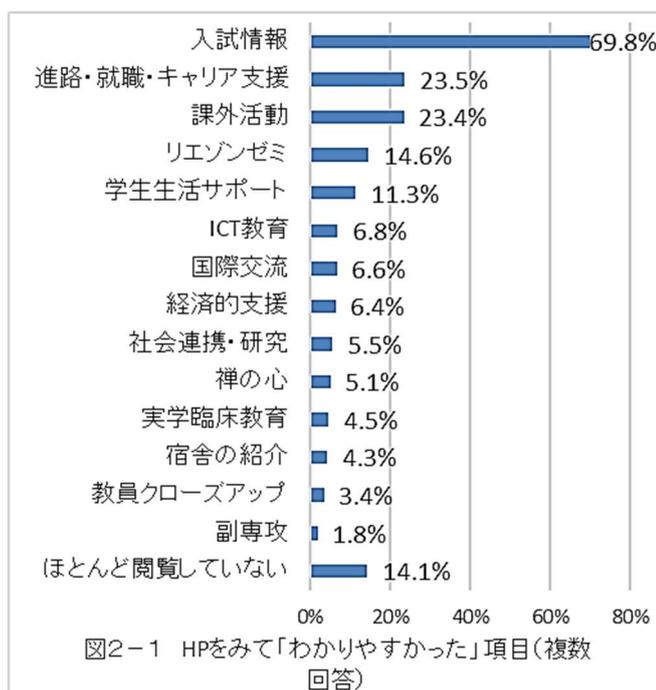


図2-1 HPをみて「わかりやすかった」項目(複数回答)

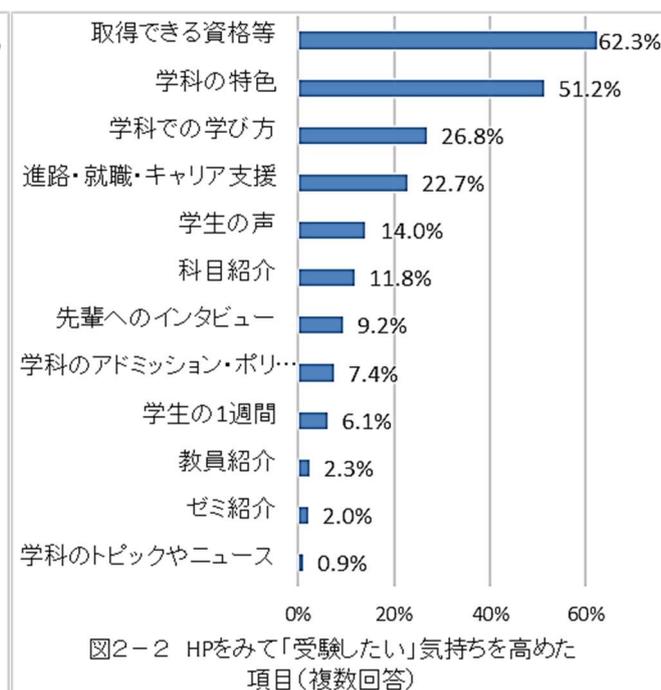
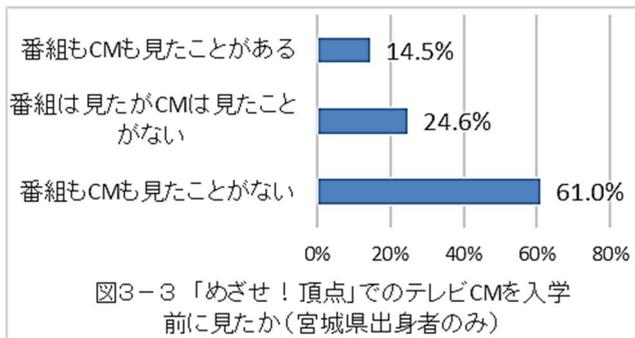
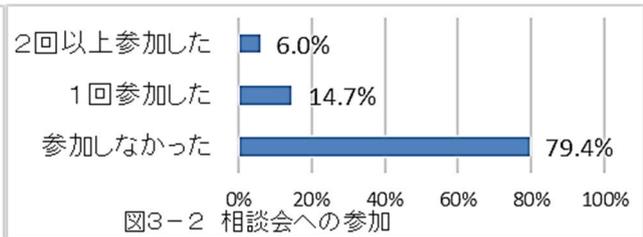
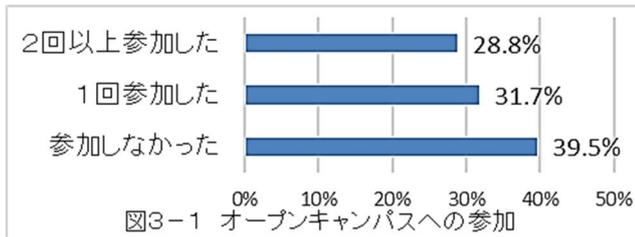


図2-2 HPをみて「受験したい」気持ちを高めた項目(複数回答)

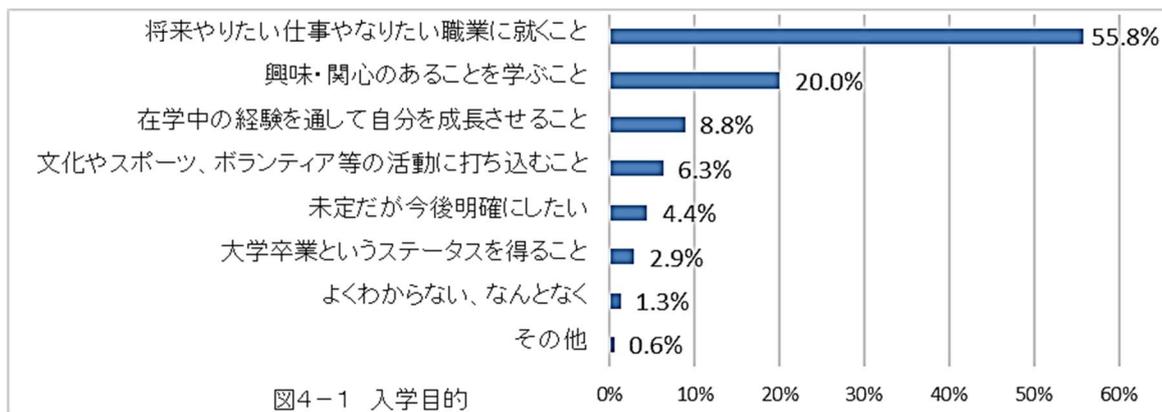
3) 入学に至るまで：オープンキャンパス、相談会、TVCM

オープンキャンパスへの参加について図3-1に、各種相談会(東北福祉大学単独、業者企画、高校主催など)への参加について図3-2に示す。また、東日本放送「めざせ！頂点」とその番組で流れている本学テレビCMの視聴状況について図3-3に示す。なお「めざせ！頂点」及びテレビCMに関する集計は宮城県出身者(505名)のみ対象に行っている。



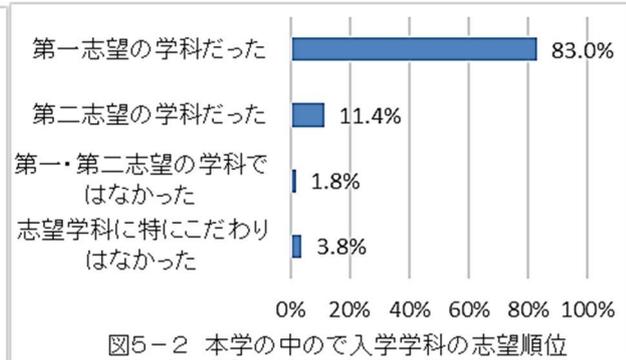
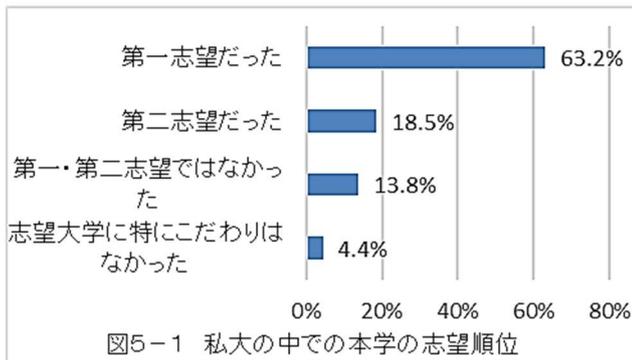
4) 入学に至るまで：入学目的

本学への入学目的を図4-1に示す。なおこの設問では最も当てはまる理由を1つのみ選ぶ形式で回答を求めている。2017年度、2018年度の調査結果と同様に、「将来やりたい仕事やなりたい職業に就くこと」が最も多く、次いで「興味・関心のあることを学ぶこと」であった。



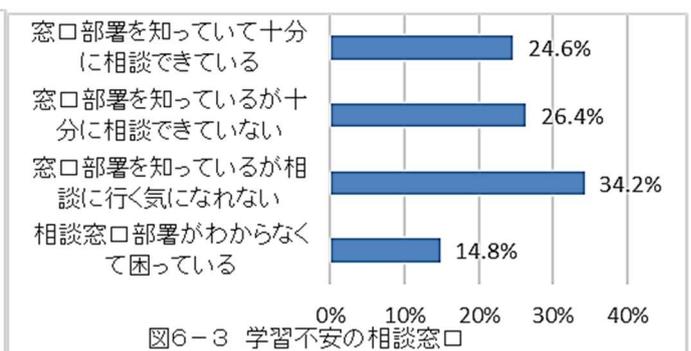
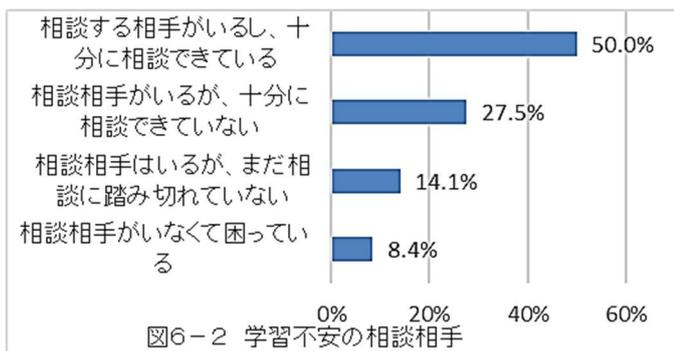
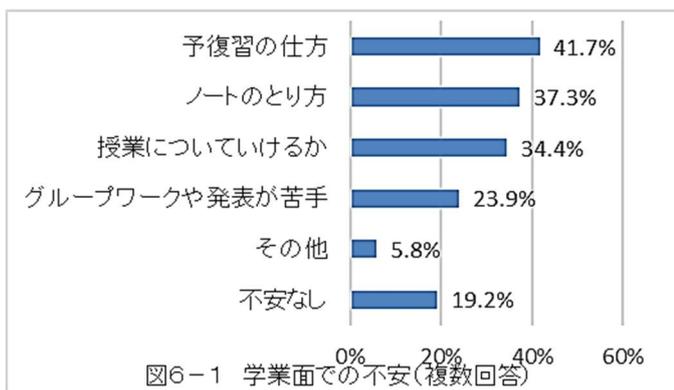
5) 入学に至るまで：志望順位

私立大学の中での本学の志望順位を図5-1、本学の中での入学した学科の志望順位を図5-2に示す。共に第一志望が最も多かった。

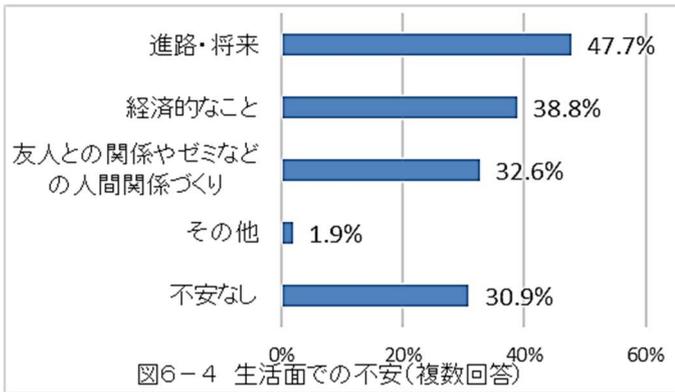


6) 入学後：学業面と生活面での不安

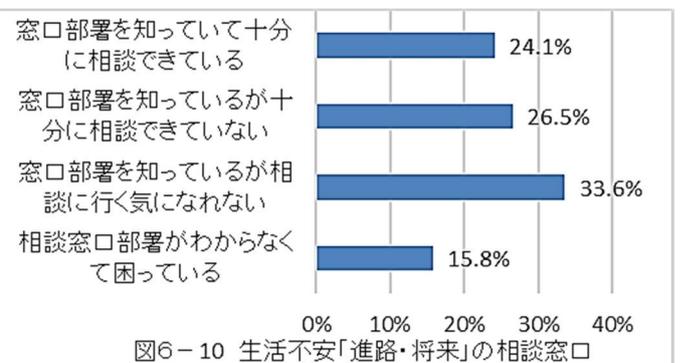
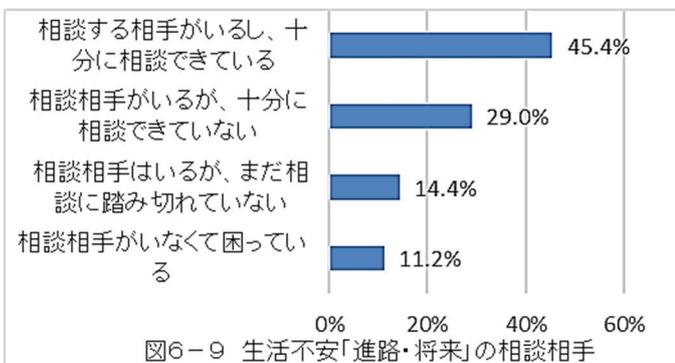
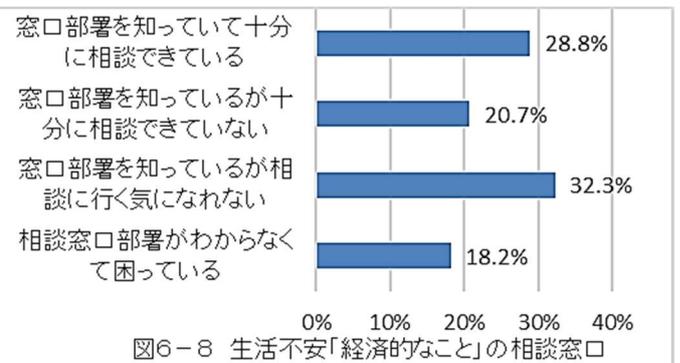
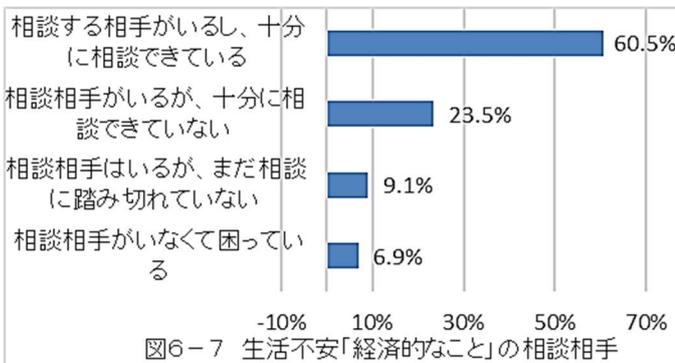
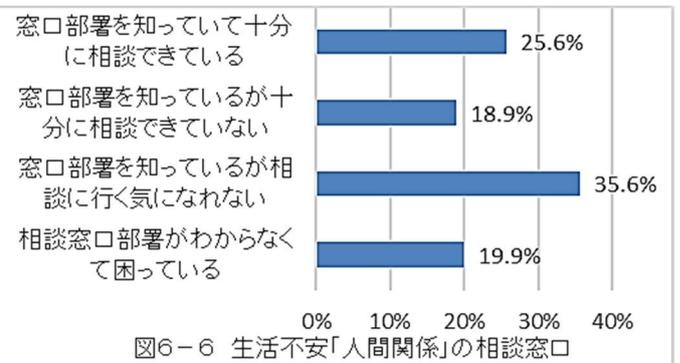
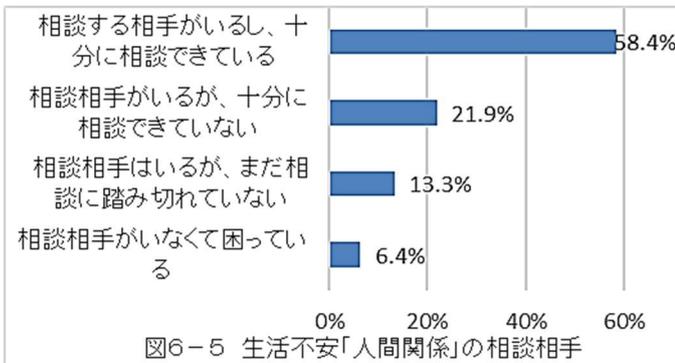
入学後に感じている学業面での不安について図6-1にまとめた。過年度と同様、「予復習の仕方」「ノートの手取り方」に4割程度のものが不安を感じていることが示された。この学習面での不安に関して「相談する相手」と「相談する窓口・部署」の利用について図6-2と図6-3にまとめた。相談相手に比べて窓口・部署は相対的に利用されていないことが示された。

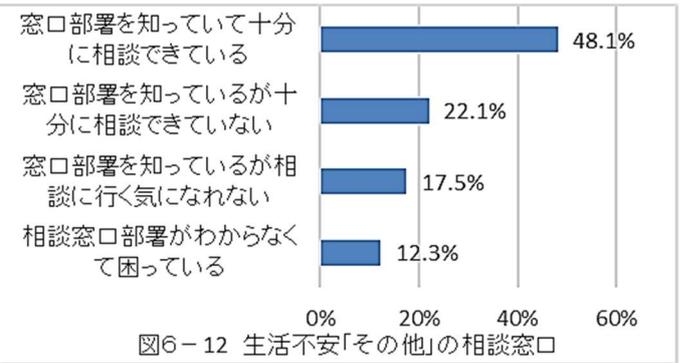
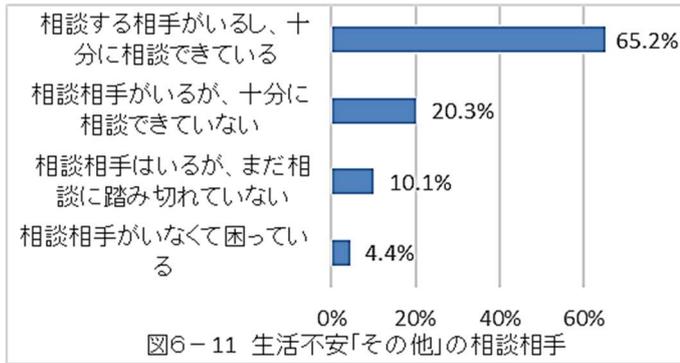


続いて生活面での不安を図 6-4 に示す。「進路・将来のこと」が最も多いことは過年度通りであった。



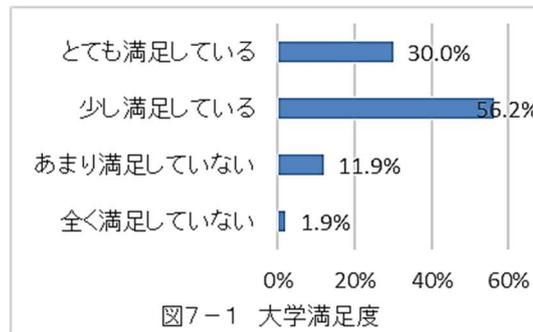
この生活面での不安について、項目ごとに「相談する相手」と「相談する窓口・部署」の利用について聞いている。これらの結果を図 6-5 から図 6-12 まとめた。学習不安と同様、相談相手に比べて窓口・部署は相対的に利用されていないことが示され、「相談部署・窓口がわからない」という者が 10~20%程度いることが示された。





7) 入学後：大学生活への満足感

入学後の大学生活への満足度を図7-1に示す。「とても満足」が3割、少し満足が5割強と、全体的に概ね満足している傾向がうかがえるが、「あまり満足していない、全く満足していない」をあわせると1割強となることは過年度と同様であった。



Ⅲ. 大学生生活の満足度と関連する要因の検討

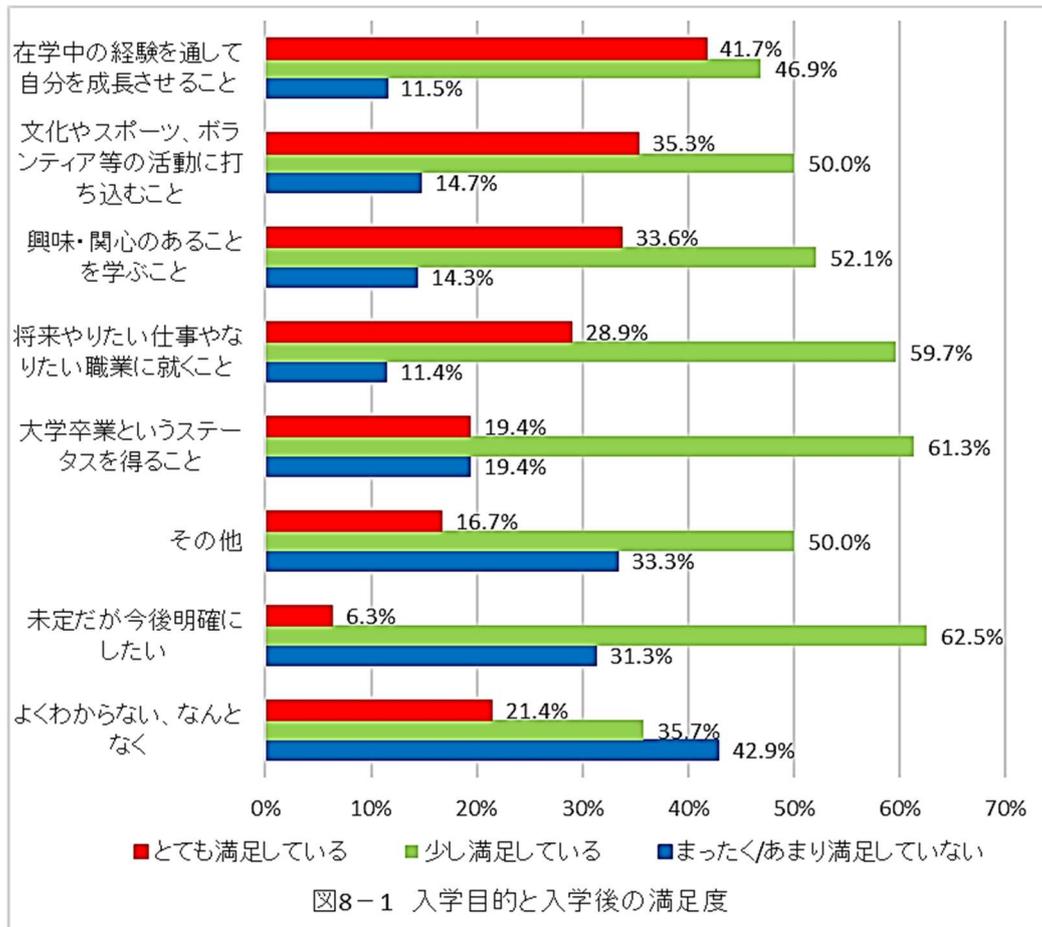
前ページⅡ－7)に結果を記した「入学後の大学生生活への満足感」と統計的に有意な関連を示した項目をまとめていく。その際、大学生生活への満足感を「とても満足している」「少し満足している」「あまり満足していない・全く満足していない」の3つに再カテゴリ化することとする。理由は、全く満足していないが全体の1.8%とごく少数だったため、そのままでは他項目との関連を検討する分析が適切に行えなくなるためである。

1) 基本的属性との関連

回答者の基本的属性(居住形態、入試形態、出身地)と大学生生活への満足度の関連について χ^2 検定を用いて検討したが、すべての属性において有意な関連を示すものはなかった。

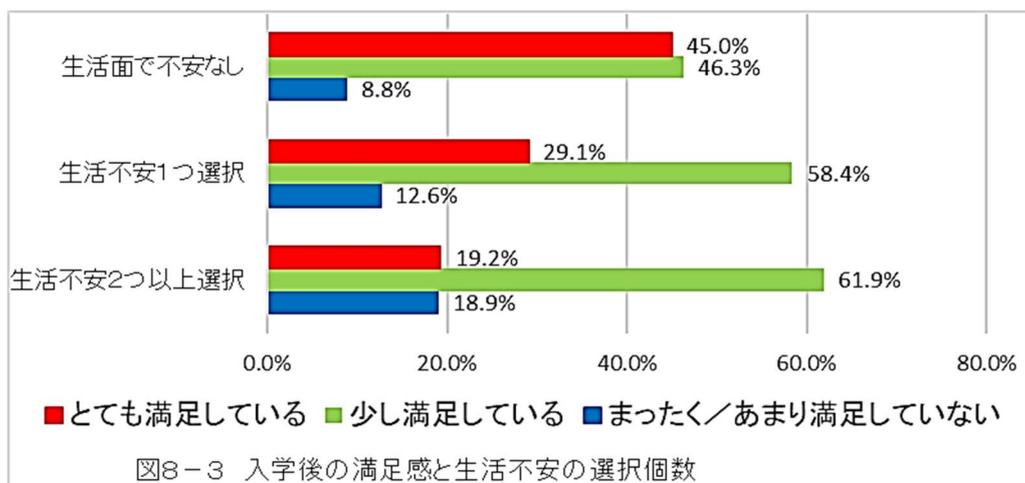
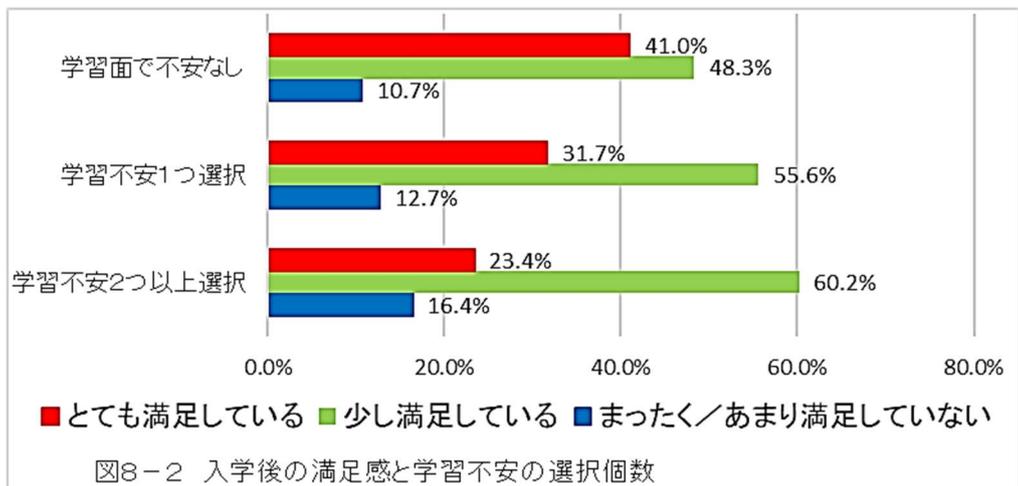
2) 志望順位、入学目的との関連

入学後の満足度と「私大の中での本学の志望順位」「本学の中での入学学科の志望順位」「入学目的」の3項目との関連について χ^2 検定を用いて検討したところ、満足感にのみ有意な連関が示された。結果を図8-1にまとめた。入学理由を「よくわからない、なんとなく」「未定だが今後明確にしたい」と答えた者に「満足していない」という回答が多いことと、「自己を成長させること」「活動に打ち込むこと」「興味関心あることを学ぶこと」等の理由をあげる者に「満足している」という回答が多いことが明らかとなった。

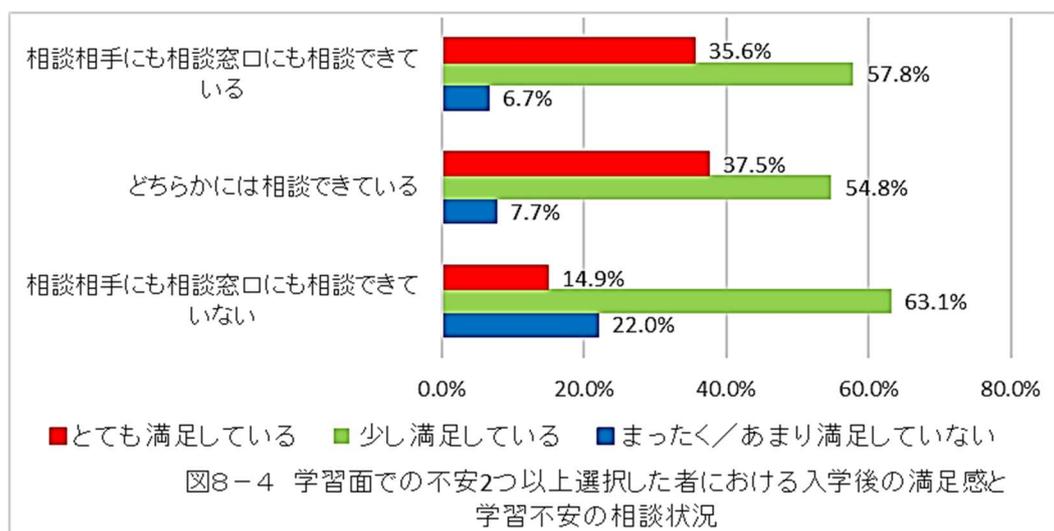


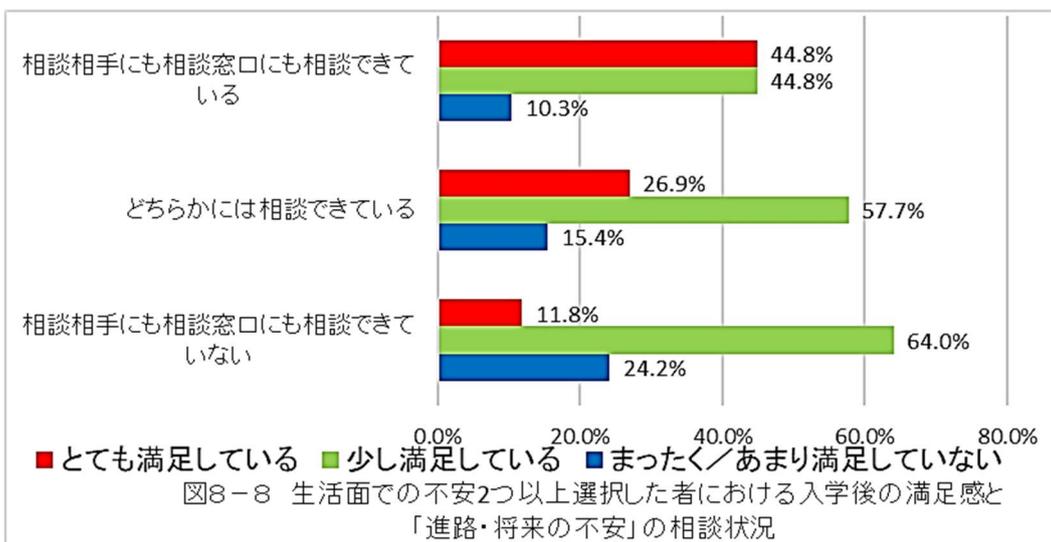
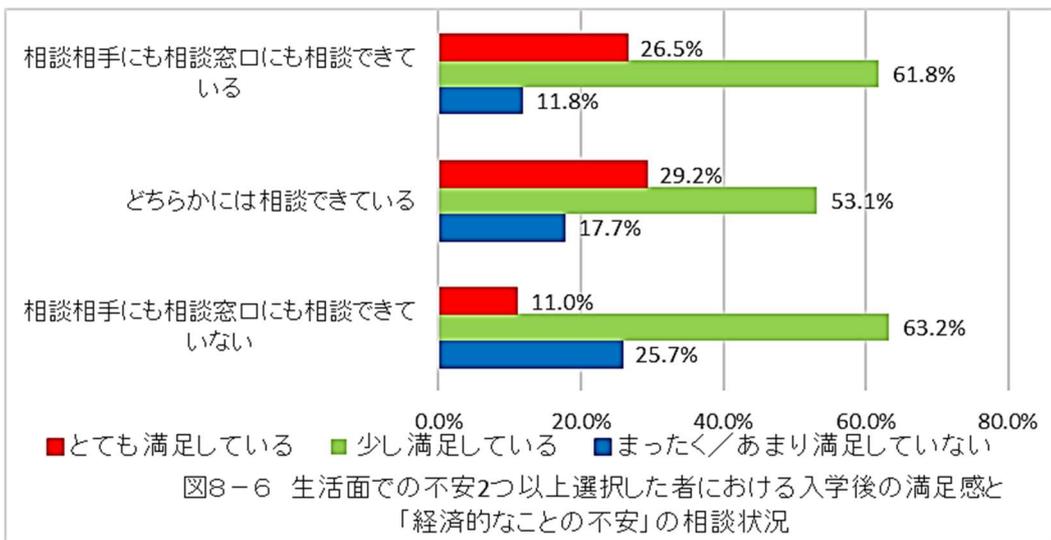
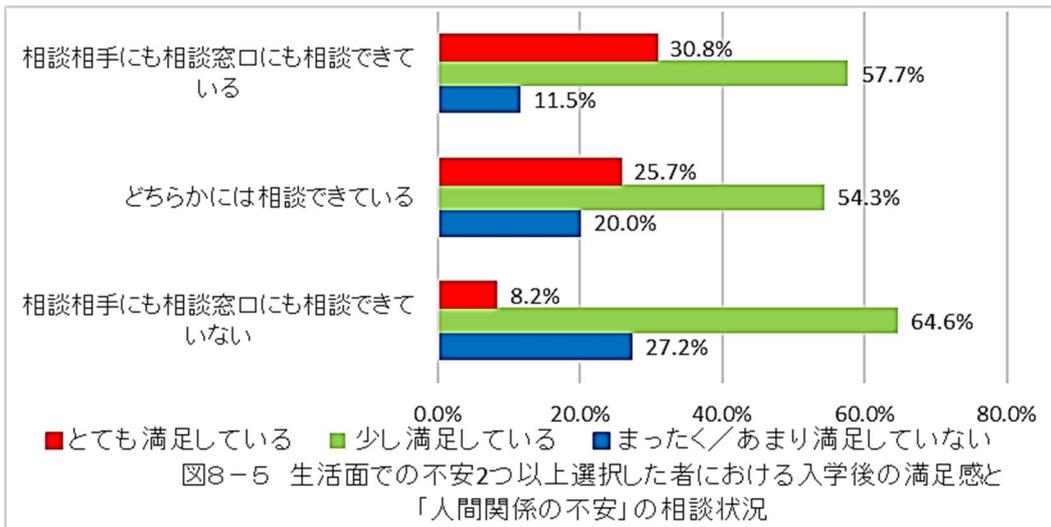
3) 入学後の学習面・生活面での不安、不安の相談相手・相談窓口との関連

まず学習面・生活面それぞれで不安項目の選択個数と満足感の関連について χ^2 検定を用いて検討した。その結果、学習面・生活面ともに不安が増えるほど「とても満足している」者が減り、「あまり・全く満足していない」者が増えることが明らかとなった(図8-2、図8-3)。



ただし、不安が多い者では「少し満足している」という回答が多いわけであり、全体的に満足していないというわけではない。そこで、不安を2つ以上選択した者だけに限定して、相談相手/相談窓口・部署の利用状況と満足感との関連を検討した。なお、相談相手/相談窓口・部署の利用について、個々の回答から「相談相手にも窓口・部署にも相談できていない/どちらかには相談できている/相談相手にも相談窓口・部署にも相談できている」に再カテゴリ化した。集計結果を図8-4から図8-7にまとめた。これらの関連はすべて χ^2 検定にて有意であり、「相談相手にも窓口にも相談できている」者の方が満足感を高く持つことが示された。つまり、不安を感じていても相談することができていれば大学生活に満足感を持つことができることが示唆されたと言えよう。





IV. 入試形態に着目した集計

：特に入学前のオープンキャンパス・各種相談会の参加、TVCM視聴、入学目的、志望順位について

以降の集計においては、入試形態を「AO入試、スポーツ・文化AO入試」(以下、AO)、「推薦入試A方式専門課程推薦、推薦入試A方式同窓生等推薦、推薦入試B方式公募制推薦」(以下、推薦入試)、「一般入試A日程、一般入試B日程、一般入試C日程、給付型奨学金入試」(以下、一般入試)、「センター試験プラス方式、センター試験利用入試前期、センター試験利用入試後期」(以下、センター入試)に再カテゴリ化した。なお他の入試形態は回答者数が少なく、集計にとっては個人が特定される恐れがあるため含めなかった。

1) オープンキャンパスの参加、各種相談会の参加、TVCM視聴の関連

再カテゴリ化した入試形態ごとに、オープンキャンパスの参加、各種相談会の参加、TV「めざせ！頂点」及び本学CM視聴について図9-1から図9-3にまとめた。まず「オープンキャンパスの参加」について(図9-1)も、AO入試・推薦入試の合格者のほうが一般入試・センター入試の合格者よりもオープンキャンパスに多く参加しており、一般入試・センター入試の合格者は6割程度が参加していないことが明らかとなった。また、各種相談会の参加については、参加しなかったという者が最も多いものの、AO入試・推薦入試のほうが参加する傾向にあるのは同様であった(図9-2)。またTV番組「めざせ！頂点」及び番組中に流れるCMについて宮城県出身者のみ対象に集計したが(図9-3)、各種相談会と同様の傾向であった。

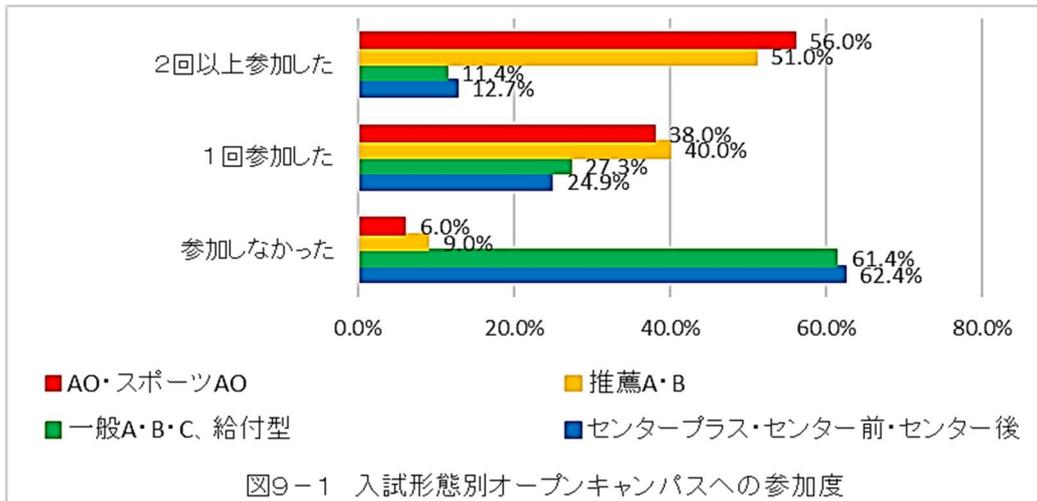


図9-1 入試形態別オープンキャンパスへの参加度

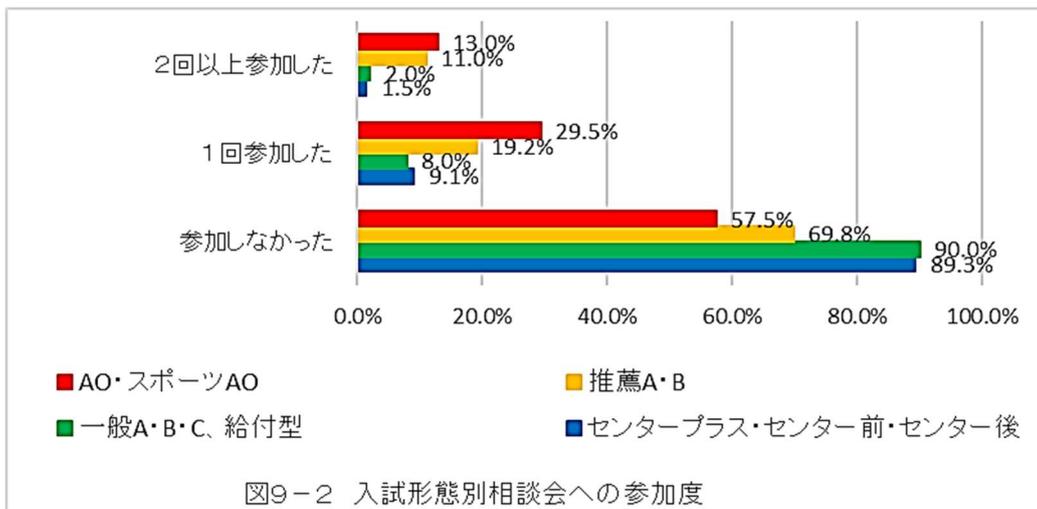
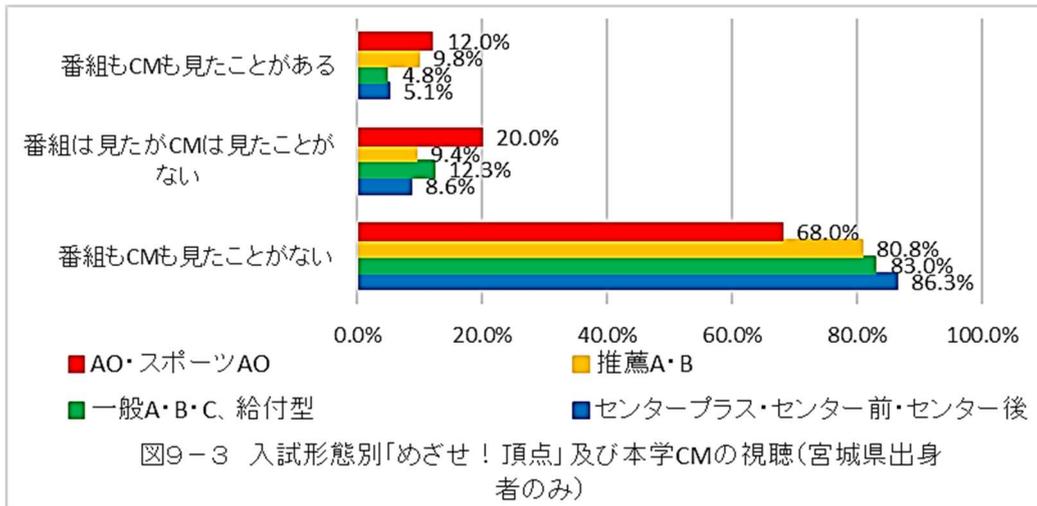
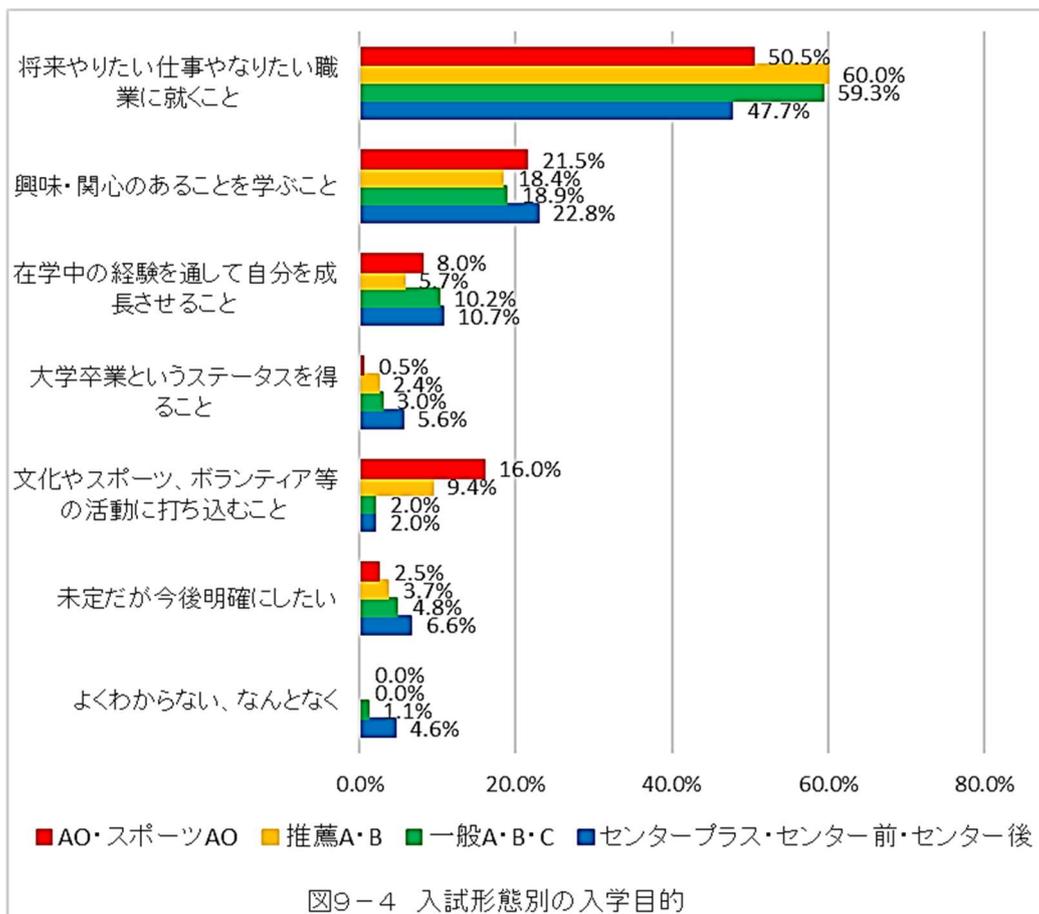


図9-2 入試形態別相談会への参加度

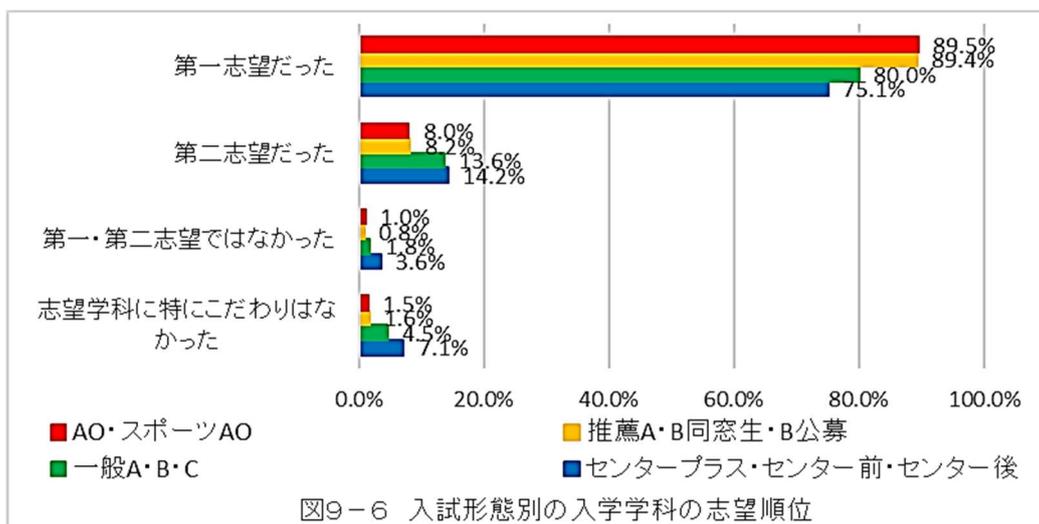
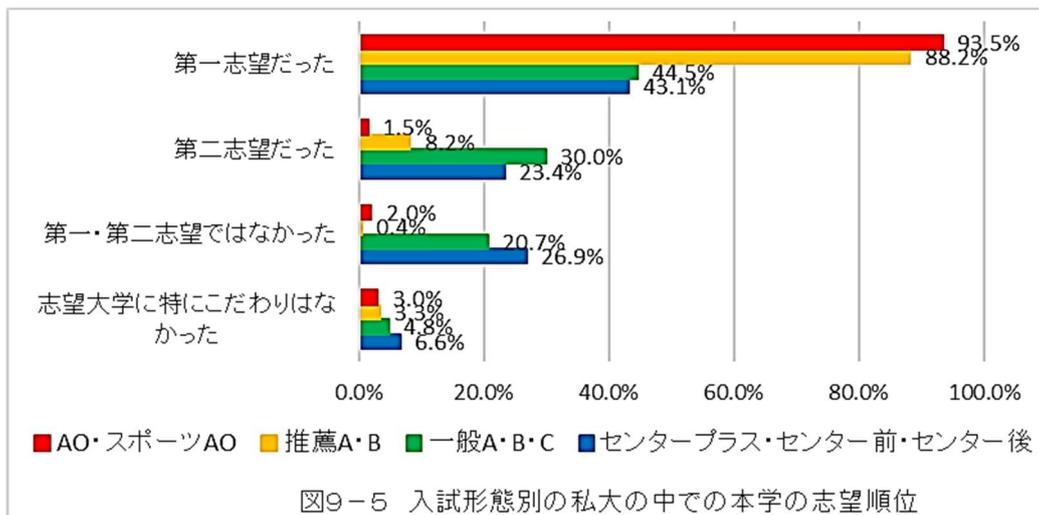


2) 入学目的、志望順位の関連

「入学目的」との関連を図9-4にまとめた。全体傾向として「やりたい仕事、なりたい職業」が多く、次いで「興味関心のあることを学ぶこと」の順であるが、この傾向は特に一般入試と推薦入試合格者が他の入試よりも顕著であることが示された。またAO入試・推薦入試合格者が他より「文化・スポーツ・ボランティア活動に打ち込むこと」を挙げていることが示された。

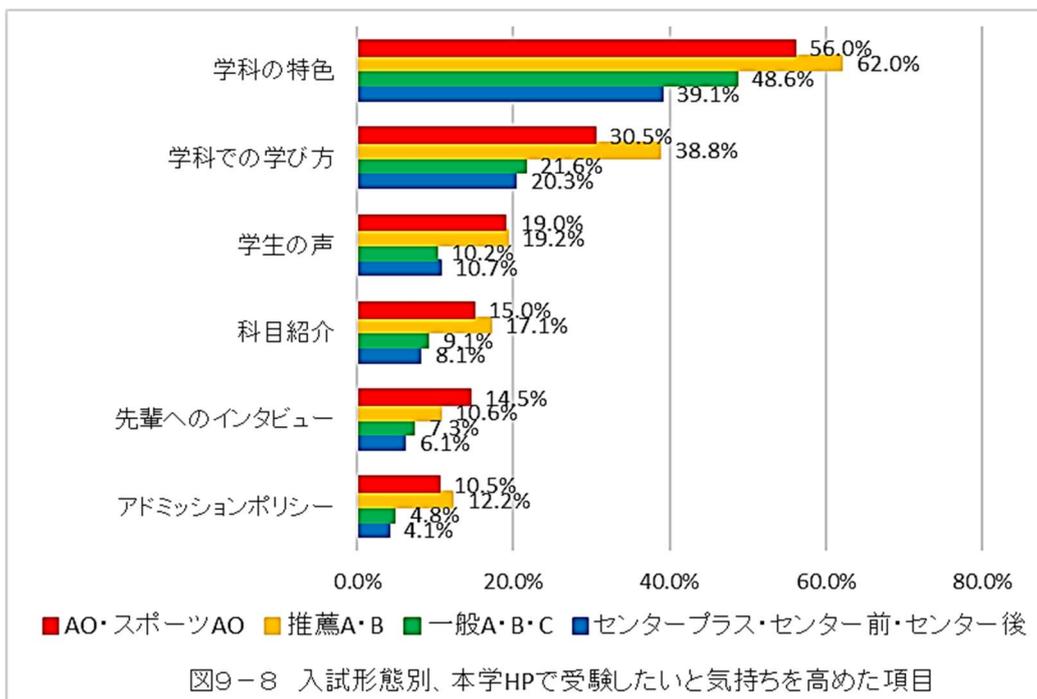
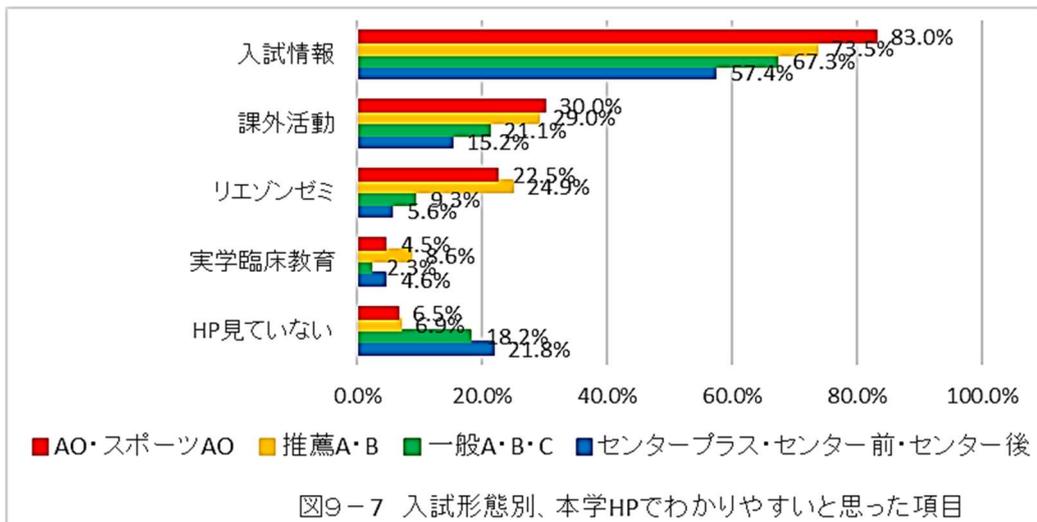


続いて「私大の中での本学の志望順位」について、AO入試・推薦入試の合格者のほうが第一志望であった者が多く、一般入試・センター入試の合格者のほうが第二志望以下と回答する者が多いことが示された(図9-5)。「入学学科の本学の中での志望順位」では、どの入試形態でも第一志望が最も多いことに違いはないが、第二志望に一般入試・センター入試が多いことが示された(図9-6)。



3) 本学 HP から得た情報との関連

続いて本学 HP について、「理解しやすかった項目」と「受験したいという気持ちを高めた項目」について、入試形態で統計的な有意差が見られた項目のみ図 9—7 と図 9—8 にまとめる(注：図に掲載されていない項目は入試形態による差がなく、どの入試形態でも図 2—1、図 2—2 に示した全体傾向通りであることを意味する)。まず図 9—7 より「HP を見ていなかった」という回答はセンター入試と一般入試が他の入試形態よりも多いことが示された。そして推薦入試・AO 入試が「入試情報、リエゾンゼミ、課外活動」について他の入試形態よりもわかりやすいと評価していることが明らかとなった。また、図 9—8 に示した全項目において AO 入試・推薦入試が他の入試形態よりも「受験したいという気持ちを高めた項目」としてより多く選択していた。



4) 本学の志望順位とオープンキャンパスの参加、各種相談会の参加、TV「めざせ！頂点」及び本学 CM 視聴の関連

入試形態に着目した1) から3) までの分析と関連して、本学の志望順位とオープンキャンパスの参加、各種相談会の参加、TV 番組「めざせ！頂点」及び本学 CM 視聴について図 9—9 から図 9—11 にまとめた。オープンキャンパスについては、第一志望のものは1回以上参加している者のほうが多いが、第二志望以下だと参加しなかった者が多いことが明らかとなった(図 9—9)。各種相談会では、全体として「参加しなかった」者が多い中で、志望順位が高い者のほうが参加する傾向がみられた(図 9—10)。TV 番組「めざせ！頂点」及び本学 CM 視聴は、オープンキャンパス・各種相談会と比べて志望順位との関連は小さいといえるだろう(図 9—11)。

